

# 平戸

令和5年8月31日  
横浜市立平戸小学校  
〒244-0803  
横浜市戸塚区平戸町542番地  
TEL 045-821-2329  
FAX 045-826-2005



学校HPが  
更新されています。  
ぜひご覧ください。  
(閲覧数8/31現在  
71624)



## 子どもの話を聴く 校長 若色 昌孝

本当に暑い夏でした。皆さま、ご体調はいかがでしょう。本校は、前期後期の2期制ですが、気持ちも新たに学校生活が再開しました。子どもたちは汗をかきながらも、元気いっぱいに登校してきています。



元気に登校してくる子どもたち

子どもの話を聞くことは楽しいです。そこには、子どもたちの思いが詰まっており、ストーリーが存在し、子どもならではの世界があるからです。そして、楽しいと同時に、子どもの話を『聴く』ことはとても難しいです。子どもが何を伝えようとしているかをキャッチするアンテナが必要です。子どもが使った言葉の意図するところを考えることが必要です。そして、そう伝えようとする子どもの背景にも、思いをめぐらす必要があるからです。

先日、日本在住4カ月の外国の方とお会いする機会がありました。しばらくお話しした後に、私が拙い英語で、「日本語で難しい言葉は何ですか？」と質問すると、その方は、少し考えた後に、「う〜ん、『ダイジョウブ』は、ムズカシイですね。」と言われました。本当に大丈夫な時もあるし、大丈夫ではないときにも「大丈夫」と言われることもあるし、話を早く終わらせたいときにも、日本人は「大丈夫」を使うので、その用法の難しさについて話されました。確かに！

くしくも、その翌日に参加した教師対象の児童理解研修では、講師の方が、「子どもの『大丈夫』を、大丈夫だと思って聞いて、大丈夫？」と、参加した教師に問いかけました。「大丈夫ではないときも、子どもは『大丈夫』と言うし、子どもと教師の間に信頼関係がない時にも、子どもは『大丈夫』と言いますよ…」と。改めて、我々学校職員が、子どもの話をどう聞くか、子どもとどんな関係をつくるかが問われていると感じました。「大丈夫」と言う子どもの言葉に安易に安堵してしまうのもよくない…。かと言って、「大丈夫」だと言う子に、「本当に大丈夫？」と何度も聞くのも嫌がられてしまうし。

友だちとのトラブルの後、両者から話を聞くと、話がかみ合わないことも多いです。翌日、改めてゆっくりと聞くと、「あのね、昨日は本当のことが言えなかったの…、本当はね…」ということもあります。子どもの心に触れながら子どもの言葉を受けとめ、丁寧に子どもの話を『聴く』ことができる平戸小学校でありたいです。